【別紙３】

２０１９年度　室蘭工業大学国際交流センター
国際共同研修プログラム研修参加報告書（学生）

プログラム参加者 所属･学年･氏名	建築社会基盤系学科　2 年　山中日南子		
引 率 教 員 氏 名	佐藤和彦　准教授	訪問国・協定校名	ネパール・ドリブバン大学 PN キャンパス

9 月 15 日～9 月 24 日に行われた 9 泊 10 日のネパール研修の報告をする。
1.2 日目は新千歳―バンコク―カトマンズ―ポカラの移動日であった。
3 日目はネパールのポカラに位置するドリブバン大学･PN キャンパスにてワークショップのオリエンテーションが行われた後、PN キャンパスの先生方、学生 5 名（以下 PN 学生）とともにポカラの市内観光をし、夜はレイクサイドにて Welcome Party が行われた。
4.5 日目は 1 泊 2 日のトレッキングを行った。この 2 日間で PN 学生との交流をより一層深めることが出来た。一夜滞在した民家に部屋はお湯も電気もなく日本での生活とはかけ離れたものであった。現地の民族がほぼ自給自足で暮らしている集落の様子を垣間見ることができ、大変貴重な 2 日間となった。
6 日目は各大学の研究発表会と Closing Ceremony が行われた。発表会ではネットワーク環境について、ネット犯罪について、蛾と蝶について、ネパールの鳥についてなどがありどれも興味深いものであった。研究発表後、このワークショップに参加した全員が英語で 1 分程度の振り返りスピーチを行った。
7.8 日目はポカラ―カトマンズの移動とカトマンズ市内の世界遺産の見学をした。
ネパールの人々との交流を通してネパールという国について理解を深めることができ、国が発展していく姿を間近で見ることが出来た。また自身の専門である「建築」という視点でネパールを見ることが出来たのも貴重な経験となった。ネパールにはヒマラヤが位置しており 2015 年には大きな地震が起こった。カトマンズを見学した際にも地震により世界遺産建造物が倒壊しており未だに修復工事を行っていた。日本も同じ地震大国であることから日本の建築技術を応用できるのではないかと感じ興味深かった。また、日本では見ることのできない風景や体験があり衝撃の毎日であった。例えば道路を横断する際には自ら道路に向かって歩いていきそれに気づいたドライバーが車を止めるのが普通であった。街中に野良犬や猫、鶏、牛などの動物の姿も見受けられて驚いた。
文化や言語が全くと言っていいほどに違う地域であったがあたたかく迎えてもらったことは特に心に残っている。今回ネパールに行き、身をもって体験したことによって得られた新しい感覚を持ち続けてこれからの学生生活に生かしていきたい。

・ 研究会等でご自身が発表した梗概・要旨・予稿原稿（英語）があれば添付してください。